

ゆくはし

今昔物語

来年、市制 70 周年を迎える行橋市。山や海に囲まれ、京築地域の中核として人が行き交い、歴史と文化が育まれてきました。昔懐かしい行橋の風景や町なみの、「今」と「昔」をご覧ください。

～ Vol.4 長井浜海水浴場～

長井浜は周防灘（豊前海）に面して遠浅の砂浜が続く、福岡県東部を代表する海水浴場です。春は潮干狩り、夏は海水浴、あるいは元旦の初日の出参拝など、地域の人々の憩いの場として親しまれてきた長井浜海水浴場の今と昔の姿を紹介します。

1955年
/ 昭和 30 年頃

白砂青松

以前は白い砂浜に沿ってクロマツが生い茂る松原が広がった、風光明媚な海水浴場でした。筑豊炭田全盛の戦後から昭和 30 年（1955）前後にかけては、夏には避暑地として各鉱山の海の家が軒を連ね、海水浴客で大繁盛でした。

昭和 51 年（1976）の筑豊炭田閉山後はそれまでの賑わいは落ち着き、松原も松くい虫によって減少しました。



▲写真右上、松原に囲まれた海の家。▲写真下、並んで停車する大型バス。▲写真左、砂浜にたくさんの海水浴客。

2023年
/ 令和 5 年現在

自然を活かした マリンアクティビティ

長井浜が大きく変わり始めたのは、平成 11～17 年（1999～2005）に福岡県が実施した高潮対策工事が契機となります。浜の北側に海砂を搬入、フラットな砂浜が整備され、ビーチサッカーやビーチバレーボールなどのビーチスポーツが盛んに行われるようになりました。

市でも海岸地域の振興に力を注ぎ、令和 2 年（2020）7 月に長井浜公園が開園、現在にいたります。

\\ マリンアクティビティの詳細は P 2～3) //



▲写真中央、オーシャンビューのカフェを併設したクラブハウスと、建物前に広がる芝生。